

年頭のごあいさつ

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

橋本昌



新年おめでとうございます。皆様にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

就任以来、3ヶ月、冷害視察、補正予算の編成、2度にわたる県議会、来年度国予算への要望、そして県内各地域での明日の茨城を考える集いの開催など、休む間もなく走り回ってまいりました。

私は、「清潔、連帯、創造」を県政運営の基本理念として、郷土茨城の均衡のとれた発展に向けて、今年も、全力で取り組んでまいります。

幸い、本県は、広大で多彩な県土、豊かな自然、優れた歴史・文化などに恵まれております。私は、こうした条件を活かし、「茨城県に生まれて、住んで良かった」と誰もが実感できるような素晴らしい郷土づくりを進めてまいりたいと存じます。

そのためには、これまで積極的に進められてまいりました道路や港といったハードの整備と併せ、福祉や医療といったソフト面の充実にも力を入れていくことが必要であると考えております。

こうした考えのもと、

- ① 地方分権の推進
- ② 生活者優先、女性が積極的に参加できる県づくり
- ③ 福祉・医療を充実し、人にやさしい県づくり
- ④ 地域環境を整備し、快適で魅力ある県づくり
- ⑤ 産業基盤を充実し、活力ある県づくり
- ⑥ 明日に希望のもてる農業県づくり
- ⑦ 教育・文化・スポーツを振興し、こころの豊かな県づくり

という基本施策を積極的に推進し、新しい茨城を県民の皆様方と手を携えて創っていきたいと念願いたしております。

現在、本県財政は極めて厳しい状況にありますが、渾身の力をもって努力してまいる決意でありますので、皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

茨城県企画部長
茨城県統計協会長

中 島 正 弘



新春にあたり、謹んで皆様のますますの御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げます。皆様には、日頃より統計行政に対し多大な御支援、御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、10月に住宅統計調査、11月には土地基本調査、漁業センサス、そして本県独自の県民生活地域調査など多くの調査が行われましたが、これらの調査が皆様の多大な御尽力により円滑に推進できましたことを深く感謝申し上げる次第でございます。

さて、今日、我が国は、国際化、高齢化、高度情報化の進展など急速な変化を遂げようとしております。また、ライフスタイルの多様化、地球規模での環境問題、社会経済情勢の変化など新たな課題への対応も求められております。

こうした中で、本県においては、豊かさと生きがいに満ちた県民生活の実現を図るために、高速交通網や港湾整備など県土の骨格づくりを進めるとともに、バランスのとれた生活基盤整備に取り組んでいるところであります。

こうした各種行政施策を実施するにあたり、厳しい財政状況のもとで計画的、効率的な行政運営をしていくためには、的確な現状把握と将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割は、ますます重要なものとなってきております。

しかしながら、統計を取りまく環境は、プライバシーの高まり、不在がち世帯の増加、ライフスタイルの変化などにより、依然として厳しいものがあります。このため、県といたしましても、新しい社会情勢に対応した統計調査環境の整備と統計情報の充実強化を図る努力をしてまいりたいと思っております。また、統計思想の普及啓蒙を図るため広報活動を強化するとともに、次代を担う青少年に対する統計教育をより一層推進してまいりたいと考えております。

本年も通常の調査のほか、商業統計調査、全国消費実態調査、サービス業基本調査など各種調査が行われます。どうか皆様におかれましては、統計のもつ社会的意義と重要性をふまえ、本県統計事業発展のため、尚一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げまして、新年のごあいさつといたします。